

### 第3回勝山市上下水道料金制度審議会会議録

開催日時 令和3年9月27日（月）午後2時00分～午後4時00分  
開催場所 勝山市役所 3階 第2、3会議室  
出席者（委員） 12名  
出席者（市側） 6名  
欠席者 1名

#### 会議経過

開会（進行 事務局）

1. 審議会会長あいさつ
2. 前回（第2回）の議事録の確認

特になし

3. 審議

- ・前回の質問についての回答（事務局説明）

特になし

- ・水道事業会計の将来見通しについて（事務局説明）

会長：説明について質疑に入る前に確認をしたいが、前回の議論で出てきた、水質を維持するために、細菌の発生を抑える費用増はどう反映しているのか、または、反映する必要がないのか教えてほしい。

事務局：大腸菌等の対策についての費用は今回のシミュレーションに含まれていない。大腸菌が発生する原因として動物の糞等が考えられるが、浅井戸、深井戸からは一般的に検出されない。検出されるのは湧水、表流水となる。大雨等により水源に影響を及ぼしていると考えますが有効な対策はない。水源を変えたり、紫外線照射装置といった設備を設けることになるが、現状、大腸菌が検出されるところの設備整備は完了しており、新たに検出された時点で考える必要がある。

会長：現状のままでもいいということか。

事務局：そのとおり。

委員：取水量については資料を提示してもらった。私が集計したところ、上水道区域については約15,000 m<sup>3</sup>/日になっているが、北郷地区、鹿谷地区については配水管の連結はされていないということですか。そうすると、北郷地区、鹿谷地区の有収水量はどれくらいになっているのか。それによって、全体を割り出していくと、将来の水量の見通しが立てられるのではないかと。

それと、福井市や坂井市などの平坦地であれば、管の接続、区域、水圧が確保できるが、勝山市の場合は、配水池を設けて給水している。水圧の調整によって有収水量が変わってくるが、どういう維持管理をしているのか教えてほしい。

あと、参考までに、広報かつやまに令和2年度の水道事業決算が掲載されていたが、若猪野水源地1号井について、どれくらい掘削したのか。金額的にはかなりかかっている。井戸そのものが2,205万5千円、こういったものをもう少し節約できるようにしてほしい。

また、前回の平泉寺の滝の堂の取水量はどれくらいなのか。大腸菌のことを話していたが、水道水源保護条例を2~3年前に改正していると思う。そういったことを加味しながら水源の管理をしていただければ、現在の料金で使っていけるのではないのか。

企業債について、企業債残高の中に簡易水道分は入っているのか。また、例えば、廃村した場合に一般会計から負担してもらおう等の話し合いはされているのか。

配水池の耐震化についてどのような工法を考えているのか。

恐竜水について、杉山の湧き水を販売されているのか。

最後に、私の区で消火栓訓練をした際に、消火栓の水を出すと言われた。審議会とは別の問題だが、市民があつて水道を設置させていただいているということを忘れないでほしい。

事務局：企業債についてだが、企業債残高には簡易水道分が入っている。統合事業分の借入も入っている。簡易水道として借入れた企業債のうち半分は一般会計に負担してもらっている。それが資本費繰入収益である。仮に廃村した場合ということだが、話し合いはしていないが、一般会計が負担すべき分は負担してもらおう予定である。

恐竜水については、水道事業で作成・販売しているものではない。ジオパークまちづくり課で作成しているもの。主に災害備蓄用に作成しているが、期限があるため、こういった会議で出させてもらっている。詳細は回答できない。

鹿谷地区、北郷地区の有収率について、鹿谷地区の有収率は平成30年度で75%、令和元年度で70%、令和2年度で76%である。北郷地区の有収率は平成29年度で63.84%であったが平成30年度に漏水調査、修繕を行い84%まで改善したが、令和元年度73%、令和2年度で64%となっている。北郷地区については、今年度、漏水調査と漏水修繕を行うので、有収率は改善する見込みである。

次に、配水区内の水圧の調整についてだが、各所に減圧弁が設置されており、下側の配水区の水圧が大きくなるようにしている。5年に1度の周期でオーバーホールをして水圧が適正になるようにしている。

若猪野水源地1号井についてだが、深さは100m掘削し更新している。費用については新しい井戸をさく井すると1億円以上かかる。今回は井戸のケーシング管が洗浄等で壊れないように、鋼管からエポキシ樹脂のものに変えたため費用がかかっているが、電気設備等は当初の1号井を再利用しており経費を抑えるように努めた。

配水池の耐震化についてだが、補強するのか、現在の配水池を廃止し、ステンレス製に変更するのかということを検討している。

消火栓の水についてだが、一時に水を出すと、水が濁る可能性があるため、思い切り出さないように消防署にお願いをしている。それが誤って、水を出さないようにしてほしいと伝わっているため、消防署と話をして誤解を招かないようにしたい。

平泉寺の滝の堂の取水能力は、80 m<sup>3</sup>/日程度であった。

委員：有収率についてお聞きしたが、この数値で収益的収支が変わるため、勝山市民のために努力をしてほしい。

長山トンネル付近にポンプ施設を作っているが、いらぬ施設を作って、無駄な費用がかかっているのではないのか。もう少し検討してやってほしい。

井戸について安くなったとのことだが、水芭蕉の井戸を掘ったときは、深さ 400m で業者から 1 億 3 千万円かかるとのことだったが、実際 933m 掘り、8 千万円弱で施工した。若猪野水源地についてもそれなりに努力してほしい。技術的にエア方式という技術等も出ていると聞くので勉強してほしい。100m 掘削したとの話だったが以前は 150m だったと思う。もっときちんと勉強してほしい。

平泉寺の滝の堂の取水能力は 80 m<sup>3</sup>/日とのことだが、滝の堂の水を利用すれば自然流下で流れ、ポンプの故障や停電時にも水が供給できる。もう少し、頭を使ってほしい。

会長：回答はあると思うが、他の質問はないか。

委員：浄土寺川ダム浄水場建設は計画か決定か。浄水場を作らないといけない取水状況なのか。

事務局：現在の取水で賄えている。浄水場の建設は計画である。できる限り先延ばしにしたいと考えている。ダムの水利権を持っているため計画に入れてある。

委員：水利権の更新は手数料がかかるのか。

事務局：手数料はかからないが、更新にかかる資料作成などの費用はかかる。

委員：平成元年度に浄土寺川ダムが着工された。将来、飲料水を地下水にだけ頼るとするのは危険なため、表流水に頼らないといけないと考え、浄土寺川ダムの水を確保することとした。災害のためにも水を確保しておかないと生活用水に支障が出るため、ぜひ水利権を更新してほしいが、地下水を確保できている間は、出来る限り水道事業のお金を使わないようにしてほしい。

会長：水利権についてはここで議論できることではない。他に質問はないか。

委員：2 ページの耐震化について、令和 4 年度からやることは決定しているのか。何年かかってどれくらいかかるのか。

事務局：耐震化については議会にも説明しており計画は進んでいる。また、重要給水施設配水管の耐震化事業は令和 9 年度まで、年間 1 億 5 千万円で計画している。全ての管の耐震化となると、本当に全ての管を耐震化するかという検討も含め、まだまだ時間がかかる。

委員：今の回答に納得がいかない。耐用年数がくるので更新することだが、掘削して管を確認して実施するなら分かるが、耐用年数がきたので更新となるのもったいないお金の使い方ではないか。

事務局：耐用年数がくるので更新するのではなく、市民の安全を考えて基幹管路については耐震化をしていく、なおかつ、耐用年数を勝山市の独自基準（管路は 40 年→70 年）にして、その中で、給水人口が多いものについて整備をしていく。

長山トンネル付近の施設だが、片瀬配水区から雁ヶ原配水池に水を上げる施設である。以前、雁ヶ原水系の鴻谷水源地と八萬水源地で夏場に水が不足したことがあり、そういったことがないように補助金を活用し整備した。

若猪野水源地について、エア方式は知っているが、水中カメラで確認したところエアを送ると壊れるという判断をし新しく更新した。

平泉寺の滝の堂の水だが、前回も説明したとおり、紫外線照射装置などが必要であり、もっといい方法がないか検討していく。

会長：2 ページについては、優先順位が記載されており、令和4年度から9年度まで5年間で優先的にやっていくというのはいいが、全体として耐震化率がどこまで改善されていくか、他にも必要なところを更新していくと思うのだが、耐震化率を100%に持っていく計画がこの資料では分からない。

事務局：基幹管路の耐震適合率の現況だが、令和元年度で13.4%、重要給水施設配水管の耐震適合率は令和元年度で49.4%となっている。令和4年度から1億5千万円/年かけて耐震化を進めていく。令和12年度で基幹管路の耐震適合率は25.8%、重要給水施設配水管の耐震適合率は63.2%を目標としている。

会長：重要給水施設は最優先でやらないといけないと思いつつも、今後40年を見ていくと、管や設備がどのような状態になっていくのか見える資料があるといい。

事務局：掘削して管を確認まではしていないが、勝山市は塩害などの影響もなく、液状化の心配もないため、掘削しても腐食している铸铁管はないというのが現状。

委員：耐震化とはどういうことか。铸铁管の場合は、ジョイント部分に余裕を持たせて布設してきた。それを錆もきていないのに取り替えるというのはもったいない気がする。皆さんに納得のいく説明をしていただけないか。

事務局：現在布設されている铸铁管の継手では耐震化にならない。また、水質が良かったということでモルタル管が入っているが、長い年月が経つと黒水等が出てくるため、管を更新することで黒水等の対策につながる。

委員：剥離をとるために洗管をしているわけだから今の説明では納得がいかない。

会長：ハード面についてはよく分からないので、資料があるのであれば次回用意してほしい。ハード面にどれだけコストがかかるかということは当然重要だが、料金制度の話を中心に審議していきたい。費用がかかれば負担は当然出てくる。毎年5億円とか7億円の投資をされて、その結果、どのような水道施設になっていくのかというのが、この資料だけでは分からない。出来る限り分かりやすい資料で出してほしい。今回、将来的な経営の見通しが出てきたので、市民の負担のあり方についてどうあるべきかを考えていきたい。

委員：私が先ほど質問したのは、耐震・更新が何年も続くのかということ、例えば10年くらいなのか。スポットで終わるのかということなのだが。

事務局：まずは、重要給水施設の優先度の高い医療施設までを令和9年度までやっていきたい。その上で、数年毎に開催される料金制度審議会で、今後どう進めていくかについてお示ししたい。

委員：もし令和9年度までということであれば、それ以降の建設拡張・改良費が上がっているが、計画がないのであればこれは必要ないのか。

事務局：10 ページの更新需要の将来見通しだが、水道事業の資産評価を行った結果、今後40年間でどれくらいの規模の更新費用がかかるかを算出した。ただ、管も設備も耐用年数が過ぎて使用しているものもたくさんあるので、勝山市独自の基準で耐用年数の先延ばしをしている(管40年のところ70年)。それでも10 ページのとおり次の15年は5億円、その次の10年は7億円という試算となっており、正直、無理だと考えている。本当に水を供給するために必要な施設はやっていく、先延ばしできるものは先延ばししていく、人口減少によって更新しなくていい施設が出来てく

るかもしれないが、現時点で数字としてできたシミュレーションをお示ししている。  
会長：料金回収率だが類似団体のものは分かるか。100%が目安だが達成されていないので。

(別資料で事務局より説明)

委員：どういった方が未納になっているのか。

事務局：滞納については料金回収率に関係ないが、滞納者の傾向ということか。

委員：生活保護の方が多いのか。

事務局：生活保護云々は関係ない。支払が遅れる方、生活が苦しい方等があるかと思う。

委員：給水条例などで給水停止があるが、給水停止の対応はしているのか。

事務局：2期以上滞納している方については事前に通知し、それでも支払や連絡がない3期以上滞納の方について給水停止している。ただし、昨年、今年と新型コロナウイルス感染症の影響で簡単に給水停止できないため、今年は、今通知を送った段階である。昨年は2回実施している。

委員：企業努力が必要であるので、企業方針に則って対応してほしい。

会長：料金回収率が90%程度で残り10%を回収できていないのが現状だが、前回の審議会では収益的収支や現金預金残高で経営的にやっていると判断し値上げをしなかった。今後、料金回収率が下がってくる、収益的収支も厳しい状況になっていくというシミュレーションを見てどのように判断するかということになる。

委員：浄土寺川ダム浄水場建設工事について話になっているが、現状の井戸による供給も持ちつつ、浄水場も運営・維持管理していくというシミュレーションになるのか。

事務局：そのとおりである。

委員：水の供給が過重ということになる。議論する上で、勝山市の地下水を大事に使っていくというのが、勝山市の使命でないかと思っている。ダムの水に代わるのであれば、一方は統廃合という形だと思うが、それがすごく分かりにくいいため明確化してほしい。

事務局：ダムの建設費を抜いた形のシミュレーションを次回提出させていただく。

委員：資料には関係ないが、日頃思っていることを言わせていただく。雪が降ると井戸を掘っている方は、どんどん井戸水を使って雪を融かしていて、井戸水はタダという意識があるが、地下水はつながっており、勝山市の水道も地下水である。私の家はトイレだけが水道で残りは井戸水なので、水道料金は基本料金くらいである。下水道使用料は2ヶ月で1万5千円くらい払っている。これが水道だけだったら、水道も同じ金額になると思う。井戸水を使っている人は、もっと大事に地下水を使っていたきたいということで、少しご負担いただけないかと思っている。定額なのか分からないが、将来人口も減ってくるのでそうしてほしい。地下水を使用しすぎると、勝山市の水道が危なくなるということ、毎年少しずついいので、皆さんにお知らせしていったらどうかと思う。

事務局：平成29年度冬の給水制限を踏まえ、地下水は市民の共通の財産であるということ認識してほしいという思いで、水道水源保護条例を改正し、井戸の届出制を導入した。立川水源地に観測井戸を掘り毎日水位を見ており、水位が水道の運営に支障をきたす場合には、皆さんに節水を要請するとともに、井戸の届出をしている方に

も協力していただけるような取組みをしていく。負担を求めるかについては、今後検討したい。

委員：ぜひ負担を求めてほしい。レジ袋が有料化されたが3円、5円でも払わないようにマイバックを持ち出した。3円、5円でそうだから、水道料金が毎月1,000円とるとなれば違ってくる。

委員：勝山市内の地下水の流れはご存知なのか。観測井戸は立川と言っていたが、立川は九頭竜川水系である。他に、女神川水系、浄土寺川水系、滝波川水系といったものがあり、流れてくる間に地下に浸透する。地下水には層がある。若猪野水源地は150m掘削したと言ったが、私の家の周辺では30m～40m掘っている。150m離すというのが標準で、その中で皆が30m～40m掘れば同じ地下水を使っているようなものである。地下水の観測については、立川の観測でこうだったから全体でこうだという表現は間違っている。

会長：料金負担をこうすべきだというよりも、将来見通しをご覧いただきたい。次回から下水道事業の議論もしていくことになるため、両方併せて判断していく。色々宿題が出たが整理をして、次回から下水道事業の議論をしていきたい。

閉 会